

これは、被服のもっている二つの機能、保護と識別の中の、識別機能におおに関係してくるものと思います。同合い、色彩、ドレープ性あるいは緊張感をもった被服、amenityな被服等々、の問題は単に被服材料や機構だけの対象でなく、それらのもつ刺激が感覚受容量によって受けいられ、いろいろな神経経路に作用を及ぼし、神経活動を刺激したり、制止したりして、個人の情緒の状態に影響を及ぼす abiotic factor として、被服衛生学の対象となるはずとっております。

今年は国際障害者年にあたりますが、障害を軽減し、残有能力を開発し、心理的な立ち直りを助重するような被服の開発を、被服衛生の上からも参加する機会となっております。

先輩の皆さんに続いて、今後おおいに頑張っていきたいと思っております。

名古屋女子大学
酒井清子

すっかり、落ち着いた色に包まれた大学のキャンパスのあちこちで読書に親しむ学生の姿、こつこつとみの音を響かせ、作品作りに熱中する学生、正に、秋は芸術の季節である。

夏の暑さから開放され、シックな装い、おしゃれな服装、個性的な着装など、一度にすべてのものを着てみたくなる季節である。

わが国では、四季の移り変りに伴って、激しい気候の変化がある。その気候や環境の中で、その季節にふさわしいおしゃれな服装をしたいといつも願っている。だからといって、ファッション性のみ重要視して、それ流行だと言い、それに飛びつき、流行が過ぎればいやになってしまう。この様な被服計画では猿真似ではないかと思う。

食物においても、人間に必要な栄養の基準量などが定められている。各食品の熱量、蛋白質、脂肪、ビタミンなどであり、食物の材料、調理法、盛り付けなどの工夫により、味付けに満足

しているのではないかと思う。

衣服も同様で、外界の気候条件に対応した快適な衣服、時代感覚に洗練された衣服、健康な衣服を着装する事を目的としていると思う。

1960年に奈良女子大学家政学部の研究員として、水梨教授の研究室に従事することになった。学生に戻った様に快適な衣服の研究に専念しようと心弾ませた。

今は御存命ではないが、先生の大柄な、ちょっと怖かったが、母親の様な眼差し、当時の事が思い出される。

当時は校舎も木造で実験する度、大変苦勞もしたが、“衣服の保温力の測定”“快適な寝具のための調査”など実験の一つ一つに若さで情熱を燃やし、遅くまで先生と語り合ったこと、また、ある時は実験で疲れた体を休めるため、外に出ると校庭を悠悠と歩いている鹿の姿にホッとした安堵を覚え、また実験をする事に勇気を与えられたなど書き尽くせないほどである。

実験の折り、先生が御自分のお子様達を人体実験によく使われていたので、大変だなあと感心していた私が先生と同様、子供達をよく人体実験の被験者に使った。“猫にかつおぶし”のことわざの様に子供達を実験に使う時、協力する事をよく言い聞かせて始めるのだが、実験が長びくと嫌がり、測定の時、子供の皮膚に銅・コンスタンタン熱電対温度計の受感部を皮膚に密着する場合の絆創膏で固定した箇所が赤くはれあがって実験を中止したり、何回も失敗したりした。その度に私の方が苛立ちを感じる事もあった。しかし、その実験を何回も重ねている間に、心の落ちつきを発見し、人間性をみがいしていく機会を得た事も多々あった。

実験に使った子供達も成長しているが、当時のことを子供達は「実験中は、母親の顔が鬼の顔に見えた時もあった。」と語っている。その子供達は今だに被験者に使っているが、私の良き協力者である。

今後も人体実験を使う研究も続くことだろう

が、第二の皮膚とも言える衣服を快適な、着心地の基礎資料になればと思い、頑張りたいと願った地のよい衣服作りのために少しでも役立ち、頑張っている。

〔事務報告〕

昭和55年度 収支決算

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	73,581	講師謝礼 @25,000×2	50,000
学会本部より補助金	50,000	部会報印刷費	68,000
部会費 @2000×41	82,000	幹事会費	17,450
55年度 @1000×4	4,000	総会運営費(アルバイト)	13,600
54年度 @1000×2	2,000	総会運営費(会場費)	14,680
参加費 @300×8	2,400	郵送料	520
雑収入(懇親金残)	5,217	雑費	520
利息	2,639		
収入合計	221,837	支出合計	164,250
		次年度繰越し	57,587
		差引残高	0

昭和56年度 予 算

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	57,587	講師謝礼 @25,000×1	25,000
本部より	50,000	部会報印刷費	75,000
部会費 @2000×70	140,000	幹事会費	20,000
利息	2,500	総会運営	13,000
		郵送料	25,000
		雑費	2,000
収入合計	250,087	支出合計	160,000
		次年度繰越金	90,087

1. 幹事会の開催

日時：9月27日 PM5:00～8:00

場所：文化女子大 被服衛生学研究室

議題

- (1) 役員の改選について
- (2) 総会について
- (3) セミナー開催計画について
- (4) 科研費申請について

2. 第3回被服衛生部会総会・講演会開催

日時：昭和56年9月28日(月)9:30～15:30

場所：文化女子大学

出席者

- (1) 講演 9:30～11:00
講師 国立身体障害者リハビリテーションセンター
診療部長 初山泰弘
- 演題 身体障害者の生理機能について
- (2) 総会 11:00～12:00

司会 弓削 治

- | | | | |
|---|---|--|----------------------------------|
| 1) 開会の辞 | 弓削 治 | 5) 新部長挨拶 | 三平和雄 |
| 2) 部長挨拶 | 渡辺ミチ | 6) 閉会の辞 | 高野延子 |
| 3) 会務報告 | | 3. 懇親会(昼食) | 12:00～13:30 |
| a. 企画 | 田口 秀子 | 司会 | 水野上与志子
中橋美智子 |
| 昭和55年度総会・講演会の報告なら
びに被服衛生部会々報創刊号の発行の
件 | | | |
| b. 会計 | | 4. 研究事例発表 | 13:30～15:30 |
| 昭和55年度会計報告 | 田村照子 | (1) 着衣量との関係からみた快適環境温度 | 一個人要因をふまえた快適条件の設定—
大阪教育大 奥窪朝子 |
| ” ” 監査報告 | 中橋美智子 | (2) 気温のステップ変化に対する皮膚温・温
冷感・快適感の過渡的応答 | 文化女子大。田村照子
岩崎房子
渡辺ミチ |
| 以上の報告が承認された。 | | | |
| 4) 審議事項 | | | |
| a. 昭和56年度事業計画 | 登倉尋実 | | |
| 部会誌2号、セミナーに関する提案
があり、承認された。セミナーに関し
てはアンケートにより会員の意見をま
とめ、実行に関しては幹事に一任された。 | | | |
| b. 昭和56年度予算案 | 稲垣和子 | | |
| 予算案は承認された。 | | | |
| c. 役員の改選 | 大野静枝 | | |
| 役員の改選について、提案があり、
新役員に下記の方々が決定した。 | | | |
| 部長 | 三平和雄 | | |
| 副部長 | 大野静枝 | | |
| 幹事 | 関東：飯塚 幸、入来朋子、川
村一男、田口 秀子、田村照子、
中橋美智子、吉田敬一
関西：稲垣和子、奥窪朝子、酒
井清子、登倉尋実、花田嘉代
子、弓削治
中・四国・九州：小林則子、伊
藤紀子、後藤信子、高野延子、
水野上与志子 | | |
| d. 名誉会員の推挙について | | | |
| 渡辺ミチ、北博 正、庄司光三氏対
して名誉会員に推挙したいとの提案が
あり、三氏を名誉会員にすることが承
認された。 | | | |

お 知 ら せ

被服衛生研究部会
渡 辺 ミ チ
三 平 和 雄

御承知のとおり、昭和56年度被服衛生研究部
会総会で、新旧委員長および幹事の交替が決定
され、昭和57年1月より新委員長および幹事に
より部会が運営されることになって居りまし
たが、本年度から家政学会本部の会計年度が4月
からに改訂されることになりましたので、当部
会もそれに合せて運営することになりました。

そのため昭和57年3月まで委員長および会計
業務を旧のまゝ延長することになりました。

なお来る4月2、3日の研究セミナーの準備
は関西地区で続行し、研究セミナーの折に新幹
事会を開き、新企画、庶務、会計等の委員を選
出し、57年度総会を開催する予定であります
ので御了承下さい。

昭和57年1月